

# 国際競争力向上のための研究人材の養成・確保を目指して - 科学技術・学術審議会人材委員会 第二次提言(概要) - (案)

## 基本的考え方

### 第一次提言

「世界トップレベルの研究者の養成」について目指すべき人材像を明らかにしつつ、大学院博士課程の教育機能強化中心に提言

引き続き世界トップレベルの研究者の養成を図るとともに、我が国全体の国際競争力を維持・向上するため、研究人材の養成・確保について、以下のような視点から、より多角的に諸問題を分析

- 知識基盤社会への移行、少子高齢化の進展と研究人材の確保
- 国際的視点からみた我が国の研究人材
- 多様な研究人材の能力発揮、研究への専念

ニーズの急速な変化の下での研究人材の需給

## 現状の問題点

### 知識基盤社会への移行、少子高齢化の進展と研究人材の確保

- ・知識基盤社会への移行を踏まえ、引き続き、研究人材の量的・質的確保が必要
- ・急速な少子高齢化により、中高年齢層の増大、若手研究者の減少が想定

### 国際的視点からみた我が国の研究人材

- ・欧米等への研究者の渡航が増大する一方、優れた外国人研究者が我が国に集まりにくい（「知の空洞化」）
- ・我が国の博士課程の教育機能の国際的にみた強化が必要

### 多様な研究人材の能力発揮、研究への専念

- ・能力・業績を適切に評価し処遇に反映する人事システムの整備、研究人材の流動化の促進が必要
- ・研究支援体制や研究施設・設備の整備が必要
- ・女性研究者、外国人研究者、若手研究者、高齢研究者など多様な研究者が能力を十分発揮できる環境・整備が必要

### ニーズの急速な変化の下での研究人材の需給

- ・大学等の人材養成と科学技術の急速な発展・社会のニーズの変化に基づく人材の需要が必ずしも適切に対応していない

## 我が国の国際競争力を高めるための改革方策

### 改革に当たっての留意点

- 関係施策の体系的推進
- 明確な目標設定と重点的取組み
- 法人化のメリットを生かした自主的取組み
- 大学、産業界等の協力
- 長期的視点に立った人材養成とのバランス

### 改革の方向性

世界水準の研究人材養成機能の整備

多様な人材が能力を発揮でき研究に専念できる環境の実現

急速に変化する需要に対応する研究人材の機動的供給メカニズムの導入

### 具体的な改革方策

- 国際競争力のある高度な研究人材養成機能を有する機関の重点支援（トップレベルの外国人研究者の受入れ、海外機関と連携した人材養成、英語環境を含む世界水準の研究環境の構築）
- 海外一流機関への派遣を通じた人材養成

- 透明・公平な人事システムの構築、多様性向上に向けた自主的目標・計画の策定
- 競争的資金による研究支援者の確保、研究施設・設備の整備促進
- 出産・育児後の研究継続のための研究費・特別研究員の弾力的運用、復帰支援
- ポストドクター等若手研究者に対する多様な支援確保、キャリアパスの検討
- 外国人研究者の積極的受入れ、優れた高齢研究者の定年後の研究継続

- 社会のニーズに対応した柔軟な人材養成
- 新興分野の人材養成ニーズの把握と支援方策の検討
- 再教育の充実、モデルカリキュラムの開発

